

岡山県母性衛生学会シンポジウム2019

HPVワクチンの今後

2019年11月9日(土)

14:45~16:05

岡山大学鹿田キャンパス
基礎医学講義実習棟
2階講義室

日本では毎年約1万人の女性が子宮頸がんを発症し、そのうち約3千人が命を落としています。世界的には9価のHPVワクチンが導入され、子宮頸がんの発症が減少に転じている国も見られています。

一方、日本では、HPVワクチンによる副反応が社会問題となって以降、政府はHPVワクチン接種の積極的な勧奨を差し控えています。実際に、子どもに接種させるべきかどうか悩んでいる親も多いと思います。

シンポジウムでは、産婦人科医、行政、学校現場、それぞれの立場から議論します。

岡山県母性衛生学会の
参加費が必要です
一般 1000円、学生 500円
無料駐車券あり

座長

岡山中央病院・岡山県産婦人科医会・日本女医会、
十代の性の健康支援ネットワーク ゆいネット

金重 恵美子
中塚 幹也

岡山大学大学院保健学研究科・岡山県産婦人科医会

中塚 幹也

シンポジウム「HPVワクチンの今後」の企画にあたって 日本における「HPVワクチン」を取り巻く状況と学生の意識の推移

岡山大学大学院保健学研究科・岡山県産婦人科医会

中塚 幹也

子宮頸がんとHPVワクチンに関するエビデンス

岡山大学病院産婦人科

原賀 順子

岡山県の子宮頸がん予防の取り組み

岡山県保健福祉部健康推進課

日笠 正文

養護教諭から見た「HPVワクチン」に関する学校での状況

岡山県立岡山朝日高等学校

山下 知子

総合討論



リプロ
カフェ

お問合せ先

岡山大学大学院保健学研究科

「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラム事務局

〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1

Phone & Fax:086-235-6538

E-mail:josan@cc.okayama-u.ac.jp